

# チェアアンパイアがつかない試合方法 (JTA TENNIS RULE BOOK 2021より)

## 1. セルフジャッジの方法

プレーヤー・チームが判定とコールすることをセルフジャッジと言い、以下のとおり行なう。

- 1) サーバーはサーブを打つ前、レシーバーに聞こえる声でスコアをアナウンスする。  
プレーヤー同士、アナウンスによってその時点のスコアを確認する。
- 2) ネットより自分側のコートについて判定とコールをする。ボールがラインにタッチした時、ボールとラインの間に空間が見えなかった時、あるいはボールを見失って判定できなかったときは「グッド」である。ボールとラインの間に、はっきりと空間が見えたときは「アウト」または「フォールト」である。
- 3) 判定とコールは、はっきりとわかる声とハンドシグナルを使って、ボールの着地後速やかに行なう。代表的なハンドシグナルは、人差し指を出して「アウト」「フォールト」を示し、手のひらを地面に向けて「グッド」を示す。
- 4) ダブルスの判定とコールは、1人のプレーヤーが行なえば成立する。しかし、ペアの両選手の判定が食い違った場合はそのペアの失点となる。ペアの判定が食い違ったとしても「フォールト」「アウト」をコールしたプレーヤーが「グッド」と訂正した場合は、1回目限り故意でない妨害としてポイントレットとなる。  
ただし、ネット、ストラップまたはバンドに触れたサービスを、1人が「フォールト」、パートナーは「レット (グッド)」とコールした場合は「(サービスの) レット」となる。
- 5) クレーコートでは、相手プレーヤー・チームにボールマークの確認を要求できる。必要であれば、相手コートへ行ってボールマークを見てもよい。相手と判定が食い違った場合はレフェリーが最終判定をする。両者が示すボールマークの位置が食い違う場合、あるいは判定できるほどのマークが残っていない場合は最初のコールが成立する。ただし、必要以上にBMIを申し出るプレーヤーには、レフェリーが適切な処置を取る場合がある。クレーコート以外はボールマークのチェックを行うことはできない。
- 6) インプレー中、他コートからボールが入って来るなどの妨害が起こった場合は、「レット」とコールしてプレーを停止し、そのポイントをやり直す。妨害については、「試合で起こるQ&A Q11～Q16」参照。
- 7) インプレー中、プレーヤーがラケット以外の着衣・持ち物を相手コート以外の地面に落とした場合、それが1回目のときは、レットをコールしてプレーを停止し、そのポイントをやり直す。2回目以降、落とすたびにそのプレーヤーが失点する。  
レットのコールは、落とし物をしたプレーヤー・チームがコールすることはできない。相手プレーヤー・チームが妨害を受けたと判断した場合に限りコールできる。ただし、落としたことがプレーに影響を及ぼしていない場合はポイントが成立する。
- 8) スコアがわからなくなったときは、双方のプレーヤーが合意できるスコアまでさかのぼり、それ以降のプレーで双方が合意できるポイントを足したスコアから再開する。合意できなかったポイントは取り消される。ゲームスコアが分からなくなったときも同様に処理する。  
再開するときのエンドとサーバーは、合意されたスコアに準ずる。ただし、ゲームスコアが訂正され、再開する場合のサーバーは、次の順のサーバーに交代しなければならない。(同じプレーヤーが2ゲーム連続サーバーにはなれない。)
- 9) 次の場合はレフェリーまたはロービングアンパイアに速やかに申し出る。
  - a. 試合中、トイレ、着替え、ヒートルールなどでコートを離れるとき
  - b. 相手プレーヤーの言動やコール、フットフォールト等に疑問、不服があるとき
  - c. プレーヤー同士で解決できないようなトラブルが起こったとき
- 10) メディカルタイムアウトを取りたい時は、レフェリーまたはロービングアンパイアに申し出る。トレーナーのいない大会ではプレーヤー自身が手当てをすることができるが、レフェリーまたはロービングアンパイアによって、手当てを必要とする状態かどうか確認後、その許可を得て3分以内に処置を行う。
- 11) 試合終了後、勝者は大会本部に試合ボールを届け、スコアを報告する。
- 12) 各判定とコールをする権利者は以下の通りとする。
  - a. 「フォールト」「アウト」「グッド」はネットから自分側のプレーヤー・チームのいずれかがコールでき、その判定が成立する。
  - b. 「ネット」「スルー」「タッチ」「ノットアップ」「ファウルショット」は両プレーヤー・チームのいずれかがコールでき、その判定が成立する。
  - c. 「フットフォールト」はコート内にいるレフェリー (アシスタントレフェリー)、ロービングアンパイアのいずれか。

13) オーバールール

「イン」「アウト」のオーバールールは巡回しているレフェリー（アシスタントレフェリー）、ロービングアンパイアのいずれかが行える。

14) 妨害によるレットのコール

コート外からの妨害による「レット」のコールは両プレーヤー・チームができる。

対戦相手による無意識の妨害（落とし物1回目を含む）は妨害を受けたプレーヤー・チームのみ「レット」をコールできる。2回目以降は故意に妨害したとして失点する。

15) 誤ったコールを直ちに訂正した場合

インだったボールを誤って「アウト」「フォールト」とコール（ミスジャッジ）したとしても「グッド」に訂正（コレクション）した場合は、1回目は故意ではない妨害としてポイントレットにする。ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかなウニングショットまたはエースだった場合は、ミスジャッジをしたプレーヤー・チームの失点となる。そして、2回目以降は故意に妨害したとして失点する。

16) 対戦相手からの故意の妨害

「ヒンダランス」は、妨害を受けたプレーヤー・チームからの申し出によりレフェリー（アシスタントレフェリー）、ロービングアンパイアが判断する。ただし妨害を認知しながら意識的にプレーを続行した場合は妨害と見なされない。

2. レフェリー、アシスタントレフェリー、ロービングアンパイアの仕事

チェアアンパイアがつかない試合では、レフェリーが大会の規模、会場のレイアウト等の条件を考慮し、適当数のアシスタントレフェリーと3～4面にすくなくとも1人のロービングアンパイアを配置しなければならない。

レフェリーはセルフジャッジの方法およびスタートオブマッチについて大会会場内に掲示してプレーヤー・チームに周知するよう努めなければならない。大会要項にウォームアップについて記載がある場合は、それに従うよう周知する。セルフジャッジの試合ではトラブルが起こる可能性が考えられるので、試合中のプレーヤー・チームがすぐにレフェリー・アシスタントレフェリー・ロービングアンパイアを呼ぶことができるよう、コートの外周を出来る限り巡回することが重要な仕事となる。

1) 試合コートのチェック（ネット、シングルス・スティック、サーフェイスなど）

2) マッチコール（試合プレーヤー・チームの呼び出しアナウンス）をする。

3) スタートオブマッチに従って、ウォームアップのまえに、プレーヤー・チームの名前、ウェアを確認し、トスをする。

4) 試合進行をコントロールし、円滑な試合進行のために担当コートの外周を巡回する。

5) トイレットブレイク、メディカルタイムアウトに対処する。

\*競技規則25、26参照

6) ヒートルールを採用する大会では、トレーナーと連携して対処をする。トレーナーがいない場合はレフェリー自身が必要な対処をする。

\*競技規則24参照

7) 必要があれば、ルール問題および事実問題についての判定をする。

8) 必要があれば、プレーヤー・チームにラインコールの方法を指導する。

9) 必要があれば、プレーヤー・チームの判定をオーバールールできる。

しかしプレーヤー・チームからのアピールの後にオーバールールすることはできない。

10) 必要があれば、クレークートでは、BMIができる。

\*ルールオブテニス付則VIボールマーク・チェックの手順について参照

11) 必要があれば、試合コート内に入り、タイムバイオレーションおよびコード違反者にペナルティーを科す。

\*コードオブコンタクト参照

12) 試合終了の確認、中断の状況を把握し、試合進行の指示を出す。

13) アシスタントレフェリー、ロービングアンパイアと適切な仕事の分担をし、相互に連絡と報告をする。

14) コール（判定）に関するトラブル（クレークート以外）の対応は以下の通り行う。

a. その事実を見ていなかった場合、コール（判定）した選手に対して、その判定は正確に行ったかどうかを尋ねる。正確に判定したことが確認された場合はそのコールが成立する。

b. その試合に主審を付けたほうが良いと判断した場合は、SCU又はすべてのコールをする主審を付けることができる。適切な主審が見つからない場合は、レフェリー（アシスタントレフェリー）、ロービングアンパイアのいずれかがコート内に入って、明らかに間違った判定をオーバールールする。その場合は1回目であっても失点する。

- c. レフェリー（アシスタントレフェリー）、ロービングアンパイアのいずれかがコート外にいて目に余るミスジャッジを目撃した場合は、コートへ入り、故意ではない妨害（1回目）としてポイントレットにする。ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかなウイニングショットまたはエースだった場合は、ミスジャッジをしたプレーヤー・チームの失点となる。そして2回目以降は故意に妨害したとして失点することをプレーヤー・チームに伝える。プレーヤー・チームがわざとミスジャッジをしているとレフェリーが確信した場合は、上記失点に加えてスポーツマンシップに反する行為のコード違反を科することができる。

ロービングアンパイアは、レフェリー（アシスタントレフェリー）と連絡を取りながら、円滑な試合進行のために担当コート近くの外周を巡回し、問題解決のため、必要に応じてコート内へ入って対応することが出来る。何らかの対応をした場合は、速やかにレフェリーへ内容の詳細を報告する。急を要さない場合は、休憩交代時に必ず報告する。主な仕事内容は以下の通りとする。

- 1) 試合前にコートをチェックし、プレーヤー・チームの到着を確認する。現れない場合は探す。
- 2) 両選手がベンチに到着したら、ネット中央へ集合するまでの1分間を計測する。残り20秒で集まるよう選手に伝える。ウォームアップ前にプレーヤー・チームの名前、ウエアを確認し、トスをする。
- 3) トラブルにつながるような様子や言動がないかプレーヤーを観察する。
- 4) レフェリーからの指示があれば、試合中のトラブル、ルール問題、事実問題について対処する。
- 5) プレーヤー・チームからのリクエストに対処する。（トイレ休憩、けがの手当てなど）
- 6) 雨天、日没、ヒートルールなど試合の中断をレフェリーに連絡する。（\*中断した場合は中断時間、スコア、サーブ一名とその位置を記録し、使用中の試合ボールを保管し、選手の待機場所を指示する）
- 7) タイムバイオレーションまたはコード違反を科した時は直ちにレフェリーへ連絡する。
- 8) コート内外のプレー環境状況が試合に悪影響を及ぼして対応できない場合は、レフェリーに連絡する。
- 9) レフェリーから指示された方法で試合経過および試合結果を報告する。

※本文章はJTA TENNIS RULE BOOK 2021をJTAの許可を得て転載したものです。本文章を他の目的でコピー又は複製しないようにお願いします。

## 【大会のご案内】

次の大会予定は下記の通りです。

大会期日・申込締切をご確認のうえ、奮ってご参加下さい！！

大会名	日 程	会 場	要項発送	申込締切
第84回東京実業団対抗 テニス大会 (秋季リーグ戦)	9月5日～10月3日	各社コート	5月28日	6月15日
	決勝:10月17日～10月31日	昭和の森テニスセンター ゆうぼうと世田谷レクセンター 駒沢オリンピック公園テニスコート 他		
第36回DUNLOP ミックスダブルス大会	11月6、13、14、23日	ゆうぼうと世田谷レクセンター 昭和の森テニスセンター 他	9月8日	9月30日

■大会日程・申込締切・大会要項（要項発送と同時に掲載）・大会プログラム及び大会の結果は実業団ホームページで確認できます。ご利用ください。

<http://www.ttajitsu.jp/>